

<市制40周年記念>

「第41回 加西市美術公募展」 作品募集

部門：洋画、日本画、水墨画、版画、書道、
彫塑・工芸、写真の（7部門）

応募資格：15歳以上

出品点数：1部門につき2点以内

出品料：無料

作品受付：日時：10月14日（日）

午前10時～午後4時

場所：加西市民会館

表彰：市制40周年記念 市長賞 副賞 10万円
市制40周年記念 議長賞 副賞 3万円
教育委員会賞 副賞 1万円
（上記の3賞は、原則として各部門1点）

文化連盟会長賞 副賞 記念品

美術家協会会長賞 副賞 記念品

奨励賞 副賞 記念品

展覧会：10月24日（水）～10月28日（日）

加西市民会館

応募要項：要項の必要な方は、下記までお申し込みください。

<申込・問合せ>

加西市教育委員会 生涯学習課 芸術文化係

☎@8775

〒675-2395 加西市北条町横尾1000番地

加西のため池～『その歴史と文化』

シリーズ5

森本 眞一（明石溜池研究会）

国土地理院の地形図（2万5千分の1）－笠原、北条－を眺めていますと、加古川右岸の加西台地上に数多くのため池があるのに気がつきます。大池、皿池、奥池、西池、新池、大谷池、新田池、奉天池など…。地形や築造された時代に関連のある池、竜神や蟹にまつわる伝説のある池などさまざまです。その中から一つ、雨乞い伝説があるため池を紹介しましょう。

才の池－雨乞い池（加西市西横田町）

この池には竜神の伝説があります。池の対岸の王子山にある寺が火事になり、寺宝の黄金の半鐘を運びだそうとした尼さんが、藤づるで作られた橋を渡ろうとしましたが、途中で焼き切れてしまい、尼さんは半鐘もろとも池の中へ。その時、一匹の竜があらわれ、黄金の半鐘を奪いとって淵へ逃げ込んでしまいました。すると尼さんの魂は大きな鯉となり、竜を追いかけました。たちまち水中で鯉と竜との格闘がはじまりました。しかし、ついに鯉のほうが力つき死んでしまいました。そして、寺宝の半鐘も竜とともに深い淵へ沈んでしまいました。

数年後の夏、長い日照りが続き、池や川もすっかり枯れてしまいました。池は底を見せ、竜神が潜んでいると伝える鐘場だけになってしまいました。村人は、「しめた、黄金の半鐘をとりもどすのは今だ」「そうだ、あれを売ってわれわれの命をつなごう」と手に手に鋤や鍬をもって集まり、鐘場を掘りはじめました。

すると、突然、空がにわか曇り、はげしい雷の音とともに大雨が降りはじめ、たちまち池は満水となってしまいました。その後、だれということなく、大日照りが続くと才の池を掘れとの声が出るようになりました。「雨乞い池」となったのです。またこの池では、時どき片眼の鯉がとれ



竜神伝説のある才の池

ることがありました。それは鯉となった尼さんが片眼であったからだと伝えています。

（吉田省三 『北播磨の伝説』 昭和57年より）

先日、この才の池を訪ねました。ひっそりとしたたずまいの池で、やはり竜神が潜んでいる感じがしました。地元の方（昭和6年生まれ）によると、50年ほど前、雨乞いをして松明を焚いて今のゴルフ場付近を道に沿って歩いたそうです。ちなみに、「雨は降りましたか？」とお聞きしますと、「覚えていないなあ」とのことでした。実際、雨は降ったのでしょうか？

この他にも、奉天池や旅順池－どうしてこの名前がつけられたのか、その背景を調べていきますと、それぞれの歴史があり人々の願いや想いが詰まっていることがわかってきます。私たちは、これらの《文化資源としてのため池》をどのように受け継いでいくのか、今後の課題の一つだと思っています。